

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【茨城県】塩屋さん

○ふりかえって思うこと、心に残ったこと
前の会社が倒産して、約4年ぶりに常総生協の生協祭に参加させて頂きました。又、今年は震災の影響でとても苦しい一年でした。
しかしながら、私にとって毎年恒例の常総生協祭がいつも通り開催され、その場に参上できた事が、ごく当たり前のことが出来た喜びと、同業者のみなさんに再会できた喜びと、色々な想いが交錯する祭でした。
○これからのこと
今後、恐らく水産物は放射能で更なる落ち込みが予想されます。そんな中ですが、やはり買って頂く組合員様が納得し得る情報開示や規格・価格に努めないといけないと思っております。

放射能については、全てに何らかしらで入っているものと思いますので、お客様に除染料理の勉強会など出来たらと考えています。



生協まつりにて 久保田さん(右)

○組合員のみなさまへ
常総生協を組合員様が愛しているように、我々業者も常総生協を愛しています。
どうか今後も業者は常総様と一緒に、組合員様の為に出来ることに努めますので、今後も継続して各商品を愛し買い求めて下さい。

(株)塩屋 久保田 深介

【東京都】登喜和食品さん

○ふりかえって思うこと、忘れてはならないこと
チェルノブイリ原発事故よりも深刻な、人類がかつて経験したことのない原発事故が起ってしまった。放射能によって環境が汚染され、私たちの健康や食の安全は脅かされています。
ひとたび暴走すれば、人間の手にはおえない原発の恐ろしさを、身をもって体験することになってしまったのです。
いますぐに、すべての原発を止めなければ、必ず同じ悲劇は繰り返されることを肝に銘じて、これからも「反原発」の意思を明確にしていかなければと考えています。

みなさんと力を合わせて、TPP参加を阻止していきましょう。
なお、今回の原発を事故を契機に、玄米や発酵食品などの「日本食」のデトックス効果や免疫力を高める効果が注目されています。



龍ヶ崎での発酵食品勉強会にて

当社の納豆やテンペが、みなさまの健康に寄与できることを幸せに感じると同時に、これからも安心、安全、おいしい製品づくりに精進して期待にお応えする責任を感じています。

○組合員のみなさんへ
生協でありながら利益追求に走ったり、生者に無理難題を押しついたりする一般の流通業者となら変わらない生協もあるなかで、消費者と生産者が「相互扶助」の精神を持ち続けて生協活動を続けている常総生協の取り組みは、高く評価されています。
登喜和食品は、そういう常総生協とのお付き合いに誇りをもっています。
これからも、よろしくお願ひいたします。

(株)登喜和食品 代表取締役 遊作 誠

○これからのこと
登喜和食品の製品づくりの基本である、「食の安全は当たり前のこと」、「日本の農業と食生活を応援する」という考えを変えることはありません。
放射能もさることながら、遺伝子組み換えや農薬など、食の安全を脅かすものに対しては、今まで以上に警戒を強めていかなければならないと考えています。
また、日本国民が未曾有の大震災と原発事故で苦しんでいるときに、日本の農業や国民の暮らしに悪影響を及ぼすといわれているTPPに参加して、その苦しみに追い打ちをかけるような動きを見逃すこともできません。

【シリーズ】 「共に2011年をふりかえる」

震災で大切な人を失い、今どんな思いでいるのだろうか
帰る家なく、仮設住宅で寒くないだろうか…
仕事もなくし、12月で失業保険も切れるというが、その先はどうするのだろうか…
原発事故で緊急避難を強いられ、捜索もできずに残してきてしまった自責と無念
放射能に終わるように家を出、もうふるさとは戻れないと…。私たちは「難民」？ 「棄てられた民」？
法律で年間被曝限度は1ミリベクレルまでとされているのに、いつから20ミリベクレルは大丈夫って？
母子で避難し、いつまで家族が分かれ別々に暮らさないとしないのか…。これを「自主避難」と言う国。

10日以上連絡がとれなかった親戚。そして東北生産者のみなさん。
かけがえのないもの、積み上げてきたものが一瞬にしてなくなった喪失感…
心が折れそうになるとき、そっと声をかけてくれた人々。遠く離れていても、つながりあっている支え
「みなさんを”仲間と呼んでいいですか?”」と生産者。

初めて体験した揺れの恐ろしさ。
続く原発炉心溶融。外に出ないで!、雨に注意して、ぬれタオルで口を塞いでと訴えた3月15日。
「ああこれで終わりだ…」と思った3月21日。 200kmも離れた茨城・千葉にホットスポット。
「この子に何を食べさせたらいいのか…」苦しさと思いが溢れて涙に そばにいてくれた生協の仲間
原発から出た放射能がこの身体に入っている。それでも「放射能に負けないぞ」と身体と笑顔づくり
降り注ぐ放射能になすすべもなかった野菜、そして大地・森…絶望。
長年の「土づくり」、土壌の力に希望の綱を託す有機農業。それでも心重く。
「獲っても買ってもらえないし…」海の汚染・魚への連鎖におののく漁師さんたち。

決して許さない、放射能汚染。決して忘れない人のつながり。

2011年も残り1ヶ月となるのに、まだ気持ちや経過を整理できるほど時は経っていません。放射能も厳然とここに沈着し、今も流動しています。生協でも今だに「あのときこうしていれば…」と悔やまれること多く。
今はまだ、共にした経験、共に生きていることをかみしめるだけで、言葉にはならないかもしれませんが、寄り添いあうための「言の端」で結構です。先行して職員、生産者から。組合員のみなさまからもお寄せ下さい。

【年末の配達予定】

○年末12月4回・5回は変則供給です。
12月4回 12/25(日)~27(火)の3日間
12月5回 12/28(水)~30(金)の3日間
○注文書の配布・回収も2週分同時となりますのでよろしくお願いいたします。

【年末・年始の配達予定】

| | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|-----|--|----|----|----|----|----|----|
| 12月 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 |
| | 12月2回お届け (注文書は12月4回と5回(おせち)の2回分を同時提出) | | | | | | |
| | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| 12月 | 12月3回お届け (注文書は1月1回と1月2回の2回分を同時提出) | | | | | | |
| | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 |
| | ←12月4回お届け→ ←おせち(12月5回)→ 休 | | | | | | |
| 1月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| | ←1月1回お届け→ 月火コース 水木コース 金コース | | | | | | |

「共に2011年をふりかえる」生産者から

【宮城県】高橋徳治商店さん

我が命と家族と会社のスタッフの75名が助かった。生かされた、選ばれた、命だけでも助かったのだから、生き残った・・・そんな文言は生き残ったもの自分が生きる為の言葉で、そんな言葉を語る側からどれだけの人が自ら命を断とうと考えただろうか。

振り返りとはその時間や空間が過去のものとなり記憶にも薄れてきたからできることです。

福島原発事故の影響下で暮らしている人、未だ終わらない失った多くのものや多くのことを引きずっている私たちが、振り返るのは3.11の前であり、それはもう絶対に戻らない、戻せないことです。

全てを無くした、凄絶な体験をした、未来どころか明日も見えない、明日のことも考えられない、水も食料もなく凍えながら家族や友人を探して避難所を回る人たち、流されて無くなった家の前に呆然とたたずむ人、葉も切れて意識を失う人、助けを求める声が記憶から消せない人、流されていった人を助けられず夢に見る人、夜泣きの幼子、亡くなった人の思い出を見つめて暮らす人、へドロに埋もれた散在する家具や生活の跡に抱き合って泣く人、一個のお握りに涙して感謝する母子・・・

9ヶ月になろうとしている今 風景は変わったが取りもどすすべは無い。

悲惨さをただ書いている訳ではない。体験しない人に伝える言葉を持ち合わせていないしそんな言葉はこの世には無い。

生きている意味も分からない、価値あると思ってたものが価値を失った。通りすがりに見知らぬ他人が気をつけてね、お互い頑張ろうねって声を掛け合う、それは同じ体験を共有しているからかも知れない。

何故生きているんだろう、仕事って何だろう、家族って何だろう、死ぬことって何だろう、かけがえの無いことって、大切なことって、絶対譲れないことって・・・これまで考えもしなかったことが、震災以来ただ走ってきた私を悩ませる。このままでは返すこ

とも出来ない長期借入金も私を動かす力にはならない。

友人が言っていた「私たちは見放されたのかも知れない・・・」って。

これからのことは分からない。

私が81歳までの20年払いの長期借入れで新工場を建てる予定だが分からない。引きずり抱えているものが多すぎる、重すぎる。気持ちはまだ震災当時を抱え込んだままだ。

それでも熱い応援、義援金、メッセージを送り続けてくれる組合員や生協職員の皆さんがいる。

ガレキやへドロを500人余の皆さんが片付けに来ていただき冠水した道路を水しぶきを上げて帰って行く車が見えなくなるまで見送った日々。

本当に独りになってしまったとガレキに腰掛けて今日と同じ夕陽を眺めながら「疲れたとは言まい！」と誓ったはずなのに先が全然見えないあの頃。

もういいんじゃないか。何もなくなったんだし、楽になりたいと放心したように考えて死ぬことが怖くなくなった。でも翌日は また沢山の支援の皆さんが来てくれた。独りではない・・・仲間がいる、信頼できる仲間がいる。

本当に支えていただいた。

今 南西方向から風が吹いている、原発の方向だ。西には皆さんが日々頑張っている。それは今の私どもにとって 何よりの支えだ。

今度は、どんな私たちに返せるか。ゼロから考えている。心ある生産者であること。どんな心か、今一心に考えている。

考えるとは、祈ることにつながり 祈りは心を作る。有難うございました。

2011年11月28日

(株)高橋徳治商店
代表取締役 高橋英雄



ガレキ撤去作業の合間に高橋さん(4/20)

【岩手県】コタニさん

〇ふりかえって思うこと、心に残ったこと

年が変わり2ヶ月と数日後に発生した大震災、こんな大きな被害になるとは予測できませんでした。ライフラインの復旧に時間がかかり、従業員の安否すら確認出来なくなった状況、日常が便利性に慣れすぎてしまった結果であると感じました。

直接被災を受け度々立ち止まりながらも、やっと仕事ができるまでに復旧してきた事、自分達だけではここまで来れなかったと実感しております。

生協の皆様、組合員の皆様、復旧に関わって頂いた業者の方々、皆様の支援があり、また仕事が再開できたと思っております。

震災後の従業員の顔、仕事を始められた時の従業員の顔、やっぱり仕事ができる事は嬉しいことだと感じました。

この沢山の方々から頂いた支援と励まし、忘れられません。

〇これからのこと

仕事が再開できるようになってはきましたが、原料不足状況の中での調達、原発の放射能汚染に

よる不安など前途多難ですが、皆様に安心して召し上がって頂けるよう、生協様のご協力も頂きながら、ご案内出来たらと考えております。



社員と工場の片付けをする小谷社長(真ん中) 4/21

〇組合員へのメッセージ

組合員の皆様からは、義援金、メッセージカード、イベントでの声と支援を沢山頂きました。こんなに生産者の事を考えて頂いているのだと感じました。

今後も皆様の声を聞きながら、一緒に商品を作っている気持ちを忘れず、商品のご案内をさせて頂きたいと思っております。宜しく願い申し上げます。

来年は良い年になりますように、ご健康をお祈り申し上げます。沢山の心のこもったご支援、本当にありがとうございました。

有限会社 コタニ 代表取締役 小谷幸治

【宮城県】まるたか水産さん

〇ふりかえって思うこと、心に残ったこと

今年は3月11日に起こった東日本大震災で生活が一変した年でした。数多くの方が家を失い、沢山の命が奪われました。

そして「不謹慎」という言葉で、日本全体が我慢を強いられ、大きな被害のなかった地域の方々は、より息苦しい思いをされていたと思います。

そんな状況の中でも、全国からの支援を頂き、人の温かさを改めて実感しました。

震災でライフラインが断たれ、不便な生活だった事。食料や燃料の調達に苦労したことを忘れず、これからの日々を生きていかなければなりません。

〇これからのこと

今回の震災は、日常の便利で快適な生活をもう一度見直すという点で非常に考えさせられました。そして、行政に対しての復旧の遅れや、インフラの正常化等、まだまだ課題は山積みですが、私たち

生産者が出来る事を一步一步進んで行きたいと思えます。

〇組合員のみなさまへ

私どもの会社も震災でたくさんの物を失いました。工場を復旧させるにはあまりにも困難で、正直申しあげますと、途方に迷っていました。

しかし、組合員の皆様からの暖かい励ましの言葉や、たくさんのご支援に勇気を頂き、工場を再開させることができました。

この場をお借り致しまして、改めて深くお礼申し上げます。これからも三陸の海の幸を皆様にお届けできるよう、社員一同頑張っております。

(株)まるたか水産
代表取締役 高橋雄治



3/27、石巻万石浦前の浸水している工場にて。ようやく会えました。まだ表情はこわばっていた。

【宮城県】黒澤重雄さん

常総生協組合員様

いつも御世話になっており、御礼申し上げます。
新しい年は、1月1日からスタートするのが通常の生活ですが、今年に関しては3月11日から平成23年が始まったような気がします。それまでの様々なでき事、そして思い出は遙か彼方へと飛んでしまった心境です。一年を通して、3月11日の大地震と原発による放射能汚染以外は、たいへんな好天に恵まれ、稲の生育にとっては、なんの問題もない年でした。

水の不足もなく、春の低温や強風もなく、夏は十分に太陽の恵みもあり、春先に大きな不安を抱えてのスタートでしたので、いろいろな面において恐る恐るという環境だったわけですので、すべての作業が平常通り、通常通りできることの幸を改めて感じたものでした。9月20日頃に通過した台風15号のいたづらもありましたが、除草機のお陰か、何の被害もありませんでした。

今年はどうですかとよく聞かれますので、答える前に何か悪いことでもありましたかと逆に聞き返すのが定番となりました。こんな日々の中で、誰もが津波、大地震のことは天地自然のなせる技と理解もできましようが、原発による放射能汚染については、人間の驕りの産物だと、私はものすごいきどおりを感じているものです。

先日の収穫祭(生協まつり)、たいへんな賑わいだったこと、息子達から聞かせていただきました。私は親戚の結婚式があり参加できかねましたが、「絆まき」を中心とした私どもの企画は喜んでいただけたでしょうか。

今年のような年にこそ、このような行事やイベントの必要性があると思い、顔を出させていただき

ました。個人的には参加できず残念に思っておりますので、また次の機会に組合員さんに会えることを楽しみにしております。

私どもの提案を取り上げていただきまして、毎月組合員さん3名の方に、野菜のプレゼントをさせていただいております。すべて我が家の農場から無農薬無化学肥料栽培のもので、旬のものだけですのでその月により内容や中味に違いがあると思いますが、私どもでは、野菜類は一切販売しておりませんし、毎日家族で食べているものですのでがまんしておつきあいを願います。年末には、もっと多くの方々に、その機会があるように企画してまいりたいと思っております。

なんとしても放射能汚染のことを書かずにはおれません。私は、宮城県でも最も早い「おもてなし」という稲の収穫をしますので、県内でも一番早く放射能汚染の検査をしました。

常総生協さんの方でも何度も検査をして頂いたわけですが、1ベクレル/kgの検出限界の機械にて検査した結果、7つの品種すべてにおいて不検出という結果でした。

自己責任にて自費で検査機関にお願いして進めてきましたが、食の安全・安心という言葉は少なくとも原発の関係者には、使ってほしくないと思っております。

思い起こせば、宮城の稲ワラの放射能汚染による高濃度の汚染牛が発現しなければ、今頃はまだまだこの問題は混迷を深めていたことで、たいへんな騒ぎになっていたと思います。

正直なところ、5/1付けで常総生協さんから土壌のサンプルを求められまして、その結果55ベクレルという数値の報告を頂きました。検査した何点かの中では、最も低い数値でしたが、「あとはそれで終わりかな、数値は0ではないんだよね」というような、本当に軽い気持ちでいたのが事実でございました。

それでも、栽培管理において、圃場での対応として用水路の水を充分かんがい水として田んぼに入れ、3~4回の代かきを、そして水を取り替え、また田植え後の中耕除草機も例年2~3回のところ今年は5~6回と回数を増やし、できる限り水で洗い流そうという方針で対応しました。

それがどれだけ効果があったのかはわかりませんが、その結果として検査の数値「不検出」ということだったものと信じて、良い方に解釈しています。

また、長い間の「土づくり」が、放射能汚染に対しても心配するまでもない結果になったのではないかと助言・指導してくれる方もおられまして、私もそのまま額面通りに受けたまわっております。

改めて、黒澤家初代の「お天道様と田んぼと水があれば、お米はできるんだ。米は穫ったと言うな。いただくものなんだ」というおしえを認識しているところです。

知恵があるゆえ、人はさまざまなことを考え出す。そして、それが最高のものという思いあがりのまちがいに早く気がついて、天地自然の中におい

ての人間の場所、正しいポジションを悟ってほしいと念願しています。

国や東電等、誰かのせいにしてはどうにもならないことだらけです。それでも、自分のできることを粛々と実行しながら、大きな試練と心に決め、越えられないはずはないと思えば、前にも進めると思っております。

今年の収穫は終わりましたが、同時に新年度の米づくりのスタートもすでにしております。

常総生協の組合員さんに、信頼してもらえる生産者の一人として数えてもらえるようにがんばってまいります。

つなたいこの文面から、被災地と言われている宮城県の一農民が、まだ心が折れないということを受け取ってもらえればうれしく思います。

乱文乱筆と、思いつくままの文章となりましたことおわび申し上げます。

平成23年11月27日 黒澤重雄 黒澤伸嘉

【山形県】 白鷹農産加工研究会

今年は現代社会の構造とそれを支える思想を見事なまでに露呈した年となったような気がいたします。

今年の幕開けはTPPの6月参加表明をどのように阻止するのかという緊張のなかでの幕開けとなりました。しかしながら、3/11の東日本大震災と東京電力福島第2原発の事故と放射能汚染と被曝被害、そしてその事故処理対策と翻弄されることとなりました。

○東北の現実をみつめて

私たちは、実に多くのことを学びました。

国は、津波被災地と福島を見捨てたとしか思えません。守ろうとしたのは「大企業」ばかりでした。

原発事故処理労働者を見捨てるように酷使しています。その作業被曝の保障と補償はタブーのように扱われていないでしょうか。仕事と賃金を失うことが、明日の生死とこれほどまでに密接につながっているということ、人の「シゴト」の中にこそ「社会」の矛盾の全てが反映されていることを感じました。

東北が「日本の植民地」と呼ばれる歴史を確認した瞬間でした。

大間、六ヶ所、三沢、釜石、女川、多賀城、大城寺原、東電福島第一第二、常磐炭坑・・・みな利権と産業の餌にされたマチやムラです。

しかし、またしても、この被災地に「復興利権」と「被曝利権」によって「シゴト」という支配をもたらそうとしています。

毎日、福島県民を見捨てているようないたたまれない気持ちになります。

日本は、それでもベトナムに原発を売り込み、TPP参加を表明し、復興利権に群がる体質をむき出しにし、増税によって国民負担を求めるといふ暴挙に出ています。

すべてをカネで済ませようということを私たちは許してしまうのだろうか。

日本は、それでもベトナムに原発を売り込み、TPP参加を表明し、復興利権に群がる体質をむき出しにし、増税によって国民負担を求めるといふ暴挙に出ています。

すべてをカネで済ませようということを私たちは許してしまうのだろうか。

○これからのこと

カネが万能の時代は、もうすぐ終焉を迎えようとしているように思います。そうなってくればいいという期待感かもしれません。

野田首相は、「国益に沿うTPPの推進」と同様に、被災地を「企業化」によって特区復興させようとしています。地元の農漁民の反対があってもです。何を「復興」させようとしているかは明らかです。

人々にこれだけの被曝と苦痛と損失をもたらしてもなお原発が必要なのは電力利権という富の独占を守るためです。これが「問題の本質」です。そしてこの電力利権は、農村を疲弊に追いやりその疲弊を利用して構築できたものです。

このとき、私たちは「放射能公害、原発労働者、福島県農産物」として表出した「問題の本質」にどのように向き合うのかが問われています。私たちはここを避けて通ることはできません。

これほどまでに経済格差が広がり、富と財が一握りの人間に集中するような経済構造を、私た

ち人々の手で打ち破ることができなければ、私たちの未来はこの上なく暗いものにならざるを得ないと思います。

私たちの自由や平等は、おカネの呪縛から解放されることなしにはあり得ないのではないかと感じるようになりました。

○常総生協組合員のみなさんへ

常総生協さんの信頼関係作りがすばらしいと思います。不眠不休の検査体制と確かな情報、安全と安心を基調とした暮らし方食べ方情報、丁寧な説明と理論の開示、全てが「共に生きてゆこう」という決意を表現しているように感じます。常総生協さんの取り組みであった国産綿のベビー布団にも感動しました。

安全や安心感については、個人的な事情や考え方によって判断は異なりますから、私たちが独自に土壌、大豆、玄米、雑穀、野菜などの放射性物質汚染濃度を検査いたしました。

私たちは、なにほどの被害もなく、放射能汚染もきわめて少なく、いつものように働きいつものように暮らしています。だからこそ私たちは、福島の人々と連携をとりながら生きられる途を模索しようとしています。

福島から自主避難してきた友人が弊社に入社することになりました。どうして、自己負担で安全を確保しなければならないのか、国と東電に怒りを感じます。

このストレスを吐き出し、体温を上げ、全ての化学物質に負けない体をつくり、東に金のないひとがあれば一緒に働こうと言い、南に食べる物がないひとあればこれを食べといい、遠くに原発を廃炉にしたいひとあれば一緒にやろうと言う、そんな加工研に私はなりたい。

白鷹農産加工研究会 代表 鈴木雄一